

【自由意見の内容】

(調査票回収期間 平成28年12月1日～12月8日)

景況調査票の自由意見欄に263通の貴重なご意見をいただきました。
ご多用中にもかかわらずご記入をいただき、感謝申し上げます。

分類項目	意見数
1. 経済・景気動向	92
2. 業界の動向	82
3. 顧客・得意先	60
4. 為替	25
5. 金融・資金繰り	17
6. 売上・収益	79
7. 物価変動	10
8. 消費税	15
9. 中小企業税制	7
10. 人材の確保・育成	46
11. その他	19
計（複数回答）	452

以下に、それぞれの特徴的な意見を掲載させていただきます。
なお、掲載にあたり、若干の加筆・修正を加えています。

1. 経済・景気動向について

- TPPの発行が厳しくなってきた、先行き不安である。(洋食器・刃物・金物製造業)
- 街を走っているトラックの荷台に荷物が積まれていない。日本の景気は悪くなるばかりだ。(工業用プラスチック製造業)
- 先行きが不透明で、判断に苦慮している。(発電・送電・配電用機器製造業)

- 2～3か月前から、業況が良くなってきている。(管工機材卸売業)
- 英国のユーロ圏離脱、米国の大統領交代で、世界経済が大きく変動すると予想される。中国の動向も気になる。日本経済はどうなるのか、我々にどう影響が及ぶのか、先行きに不安いっぱいだ。(ボルト・ナット・ねじ卸売業)
- 低調が続いている。街に勢いが無く、静かだと感じる。(医薬品小売業)
- この1年、景気は回復傾向にあるという感触があったが、秋になり、一息ついてきているという感触が出てきた。(自動車小売業)
- マスコミが景気は上向き等と報道しているが、実感は無い。(家具・インテリア小売業)
- 今後、変化が激しくなりそうだ。2、3年先は混乱を極めるのではないかと危惧している。(出版業)
- アベノミクスの大失敗で、建築業界は特に落ち込みが大きい。(建築設計業)

2. 業界の動向について

- 特注家具・店舗什器製造業だが、夏場以降10月後半にかけて仕事が動きはじめてきた。12月後半まで、協力会社も仕事の動きがある。来春も店舗関係の仕事が多くなりそうだ。(家具製造業)
- 倒産・廃業で、業界はどんどん縮小している。取引先加工工場が倒産するため困っている。(なめし革・革製材料製造業)
- 時間当たり売上げが下がり続けている。仕事の総量が少ないためか、価格競争が止まらない。企業体力の向上が必要である。新製品の開発等、企業体力が必要な事業への支援が欲しい。(はん用機械製造業)
- 婦人服卸売業だが、今秋冬商戦はかつてない厳しい状況。ミセス～シルバーゾーン購買層の動きがこの1年で極端に悪化し、浅草橋や日本橋の間屋等は休業・閉鎖等厳しい状況に追い込まれている。(婦人・子供服卸売業)
- 海水温の上昇で養殖魚が被害を受け大幅な原魚不足となり、販売に支障をきたしている。円安にもかかわらず、大手量販店の価格設定は低く抑えられており、川上では差損が生じている。(生鮮魚介卸売業)
- 男子服小売業だが、9～10月中旬までは好調だったが、その後景気が良くなかった。(男子服小売業)

- 米穀類小売業だが、TPP発行の動向が不安定な上、消費税増税による購買意欲不信、後継者難により、業界が先細りしてしまう。(米穀類小売業)
- 理容業界だが、規制緩和の影響で、営業形態が変わりそうだ。(理容業)
- マイナス金利政策により金融機関が積極的に投資しているため、投資用不動産が値上がりしている。(不動産賃貸・管理業)

3. 顧客・得意先について

- 経営者の高齢化による得意先の閉鎖が多く見られる。新しく起業しようとする人材も少ない。(印刷業)
- 顧客・得意先は、10年前に比べて半減した。景気が悪く、後継者もいないため、廃業する先が多い。(建設・他一般機器卸売業)
- 最近では、インターネットで安い値段を調べ、その価格を要求する顧客が非常に多い。断っても、数日後に再度要求してくるため、困っている。(自動車・自動車部品卸売業)
- お客様の暮らし方が変わったことが、商品の売れ方に現れるようになった。質を追求する方と、質を我慢する方と、二手に分かれている。一般に言う「ファッション」という仕事が減りつつある。(靴・履物小売業)
- 以前と違って、1日の来店客数、購買数が減少した。また、現金ではなくカード決済が多くなった。(菓子・パン小売業)
- 普段は人手が少ないのだが、ハロウィンや神社のお祭りなど、イベントや行事があると人手がすごく増えた。イベントや行事の力を感じた。(文房具・事務用品小売業)
- 取引先であるホテルの宿泊客層が変わってきた。観光客が増えて、ビジネスマンが減っている。(普通洗濯業)

4. 為替について

- 原料の8割以上を輸入に頼っているため、円高が進行した方が経営は楽である。円安になっても、波及効果は全く無かった。(その他の食料品製造業)
- 急激な円安に困っている。業界ではすでに2017春夏の商談が決まっているので、差損が気になる。(靴・履物卸売業)

- 円安為替のために、輸入コストが10%以上上昇。輸入価格も上昇し、平均15%程度のコストアップだが、国内市況は低迷しているため売価への価格転嫁は5%程度しか進んでいない。(木材・他建築材料卸売業)
- 中国から衣料品を輸入しているため、最近の円安で、コストが合わなくなっている。(子供服小売業)
- 仕入の大部分が輸入であるため、特にユーロ、米ドル、スイスフランの変動が影響してくる。仕入と在庫の調整が、常に課題となっている。(スポーツ用品小売業)

5. 金融・資金繰りについて

- 前年度よりも非常に売上げが下がってしまい、資金繰りが大変だ。(事務・サービス機器製造業)
- 今後、借入金利等が上昇するのではないかと、懸念している。(金属加工・事務機器卸売業)
- 常に現金仕入・現金販売を実行しているので、資金繰りには困っていない。(酒小売業)

6. 売上・収益について

- ここ3年位売上げは下降線をたどり、現在が底の状況。最悪のレベルでも経営が維持できるように徹底的に支出削減努力をし、赤字転落を防いでいる状況だ。(情報通信機器製造業)
- 繊維製品の卸売業だが、セールになる時期が早すぎて、プロパー価格で販売する時期が無い、という現状である。(男子服卸売業)
- クリスマス向け商品の受注は目標以上だったが、秋以降の客注数量の減少が気になる。今年のクリスマスは3連休であり販売に好条件なのだが、売上げにつながるか、又、年始の商況がどうか、例年になく気がかりな状況だ。(装身具・身の回り品卸売業)
- 周辺と同業者が廃業したためか、顧客が増えている。購買内容も良く、顧客単価は上昇した。(酒類・飲料卸売業)

- 通販中心での販売だが、送料負担等経費の増大が悩み。合わせて、競争の激化による販売単価の低下、デフレ傾向が強いように感じる。(雑貨・身の回り品小売業)
- 自転車業界は寒さと天候に左右されるので、雨天が多いとどうしても売上げが落ちる。(自転車小売業)
- 不動産業界だが、売買物件が無く、売上げに不安がある。事務所の需要が少ない。(不動産取引業)

7. 物価変動について

- 電気料金が高いことが懸念材料である。製品への価格転嫁は、あまり進んでいない。(鉄鋼・非鉄金属製造業)
- ブラックフライデー等の行事は、デフレの要因になりそうなので、止めて欲しい。(紙・紙製品卸売業)
- 天候不順で商品が無く、また価格が高く、商売がやりにくい。(野菜・果実小売業)
- 今年は、食料品価格の高騰で苦しんだ1年であった。(料理品小売業)
- 女性用衣料品の価格が非常に安く、使い捨てる時代になり、困っている。衣料品を再利用する時代ではなくなってしまった。(普通洗濯業)

8. 消費税・中小企業税制について

- 消費税8%でも大変。更なる増税は厳しい。(金属素形材製品製造業)
- 消費税を5%に戻さない限り、景気は良くならないのではないかと。(装身具・身の回り品卸売業)
- 消費税率は、上げなくてはならないのだろうとは思いますが、不安である。(紙・紙製品卸売業)
- 消費税減税等の即効性のある政策が必要なのではないかと。(楽器・CD小売業)
- 消費税増税の先送りは財政の悪化を招き、取り返しがつかないことになる。消費税増税を実行し、国政や市場経済に活用すべきではないかと。(リネンサプライ業)

9. 人材の確保・育成について

- 次の10年を見据えた人材の確保が必要である。(金属被覆・熱処理製造業)
- 技術者が不足しており、注文をこなせない状況が続いている。(照明・電子応用装置製造業)
- 人材が集まらない。早く103万円の壁を上げて欲しい。(パン・菓子製造業)
- 後継者不足が、一番の悩みである。(靴・履物卸売業)
- 職人、特に若い人材の確保が難しい。技能を身に付けるまで収入が伴わないのが原因だと思うので、長期的に経済援助を行ってもらえる仕組みが欲しい。(婦人服小売業)
- 在宅訪問に力を入れているのだが、担当する薬剤師の確保に苦戦している。(医薬品小売業)
- IT産業の人材不足により、採用活動が困難になっているので、会社の魅力づくりや職業の素晴らしさを訴求できるように努力している。(ソフトウェア業)
- 人材の育成等には経費等がかかり、中小企業では大変である。社会人になる前の学生の段階で、挨拶等基本的な教育を充実して欲しい。(運輸附带サービス業)
- 求人しても思うように人材が集まらない。最低賃金金額の上昇は、かなりの痛手である。経験者・ベテランの従業員と、新しく入った従業員と、賃金を差別化しにくい。(駐車場業)
- 従業員の高齢化が進み、70代の従業員がいる。(警備業)
- 飲食業界全般の人手不足が心配。今後店舗出店をするにあたり、人材確保が困難になると感じている。(酒場・ビアホール)

10. その他

- 社会保険の適用拡大により、廃業する事業者が増えている。制度の見直しをして欲しい。(その他専門サービス業)
- 道路の拡幅工事で、夜間は早めに暗くなり、歯抜け状態のようになっていて、落ち着かない。(時計・眼鏡小売業)